

## 「交流」を軸に企業や学校の課題を解決

JTB常務取締役  
JTBコーポレートセールス 代表取締役社長  
川村益之氏



JTBグループは100年にわたり、宿泊や交通といった旅行素材を提供することを生業としてきました。しかし時代の流れの中で、旧来のビジネスモデルでは差別化が難しくなってきました。そこで2006年より、人と人との「交流」に着目した新たな事業ドメインとして「交流文化事業」を掲げました。

人々が交流するところには、新たなビジネスや文化が生まれます。また交流が、社会の課題の解決にもつながります。つくばサイエンスエッジは、その最たる例といえるでしょう。

もう一つの例を挙げましょう。企業にとって、社員の意欲やコミュニケーション力の向上、メンタルヘルスケアは大きな課題です。一方、地方の農山村地域では、過疎化や高齢化に対する解決策を模索しています。そこで、農山村と都市の企業の交流を促進する「農都交流型ツーリズム」を企画しました。

私も社員と参加しましたが、農作業を体験し、地元の方々と触れ合った社員の顔は、実に輝いていました。農山村体験は都市のビジネスパーソンに生きる力を与えるだけでなく、企業からの過疎化対策の提案も期待できます。

このような企画を提案できるのは、JTBグループが一般の生活者だけでなく、企業や地方自治体、学校など、さまざまな人々と接点を持っているからこそだと思います。JTBグループは、旅行、出版、広告、ITなど多様な資産を持ち、それらを支える「人財」を強みとして抱えています。その主要な経営資源である人財を生かし、「チームJTB」が一丸となって、お客さまや社会の課題解決をお手伝いしていきたい。それこそが当グループの持続的発展にもつながるのだと思います。

ワークシヨップに参加してくれる協賛企業や大学を集める際も、JTBグループの営業接点が生かされた。つくばエクスプレスが全駅にポスターを掲示するなど、直接参加しない地元企業も一緒にイベントを盛り上げている。

つくばサイエンスエッジという場をつくったことで創造された価値は幅広い。生徒にとって科学への興味付けやコミュニケーション能力の向上、キャリア

「当社はつくば国際会議場の指定管理者であり、会議場の活性化のための自主事業開催が課題に挙がっていました。一方でJTBグループは、全国700人を超える営業担当者が学校との接点を持ち、修学旅行や校外学習などのサポートを行っており、数多い学校の課題の一部として、生徒の理科離れ対策やコミュニケーション能力の向上、生徒が自ら発表する場の不足、などをお聞きしていました。この二つが結び付いて、サイエンスエッジの企画につながったのです」

ワークシヨップに参加してくれる協賛企業や大学を集める際も、JTBグループの営業接点が生かされた。つくばエクスプレスが全駅にポスターを掲示するなど、直接参加しない地元企業も一緒にイベントを盛り上げている。

つくばサイエンスエッジという場をつくったことで創造された価値は幅広い。生徒にとって科学への興味付けやコミュニケーション能力の向上、キャリア



つくばサイエンスエッジに第1回から参加を続けている立教池袋中学校、高等学校の科学部の生徒たち

しています。生徒たちにとっては、最先端の研究内容に触れることで、好奇心を刺激されるだけでなく、こういう世界もあるんだ」と将来の可能性を広げる

効果もあると思います」(後藤教諭)

そもそもなぜ、JTBコーポレートセールスがこのような中高生向けのコンテストを主催し

ているのか。植木室長はその経緯を説明する。

### 科学コンテストがさまざまな課題を解決

「当社はつくば国際会議場の指定管理者であり、会議場の活性化のための自主事業開催が課題に挙がっていました。一方でJTBグループは、全国700人を超える営業担当者が学校との接点を持ち、修学旅行や校外学習などのサポートを行っており、数多い学校の課題の一部として、生徒の理科離れ対策やコミュニケーション能力の向上、生徒が自ら発表する場の不足、などをお聞きしていました。この二つが結び付いて、サイエンスエッジの企画につながったのです」

ワークシヨップに参加してくれる協賛企業や大学を集める際も、JTBグループの営業接点が生かされた。つくばエクスプレスが全駅にポスターを掲示するなど、直接参加しない地元企業も一緒にイベントを盛り上げている。

つくばサイエンスエッジという場をつくったことで創造された価値は幅広い。生徒にとって科学への興味付けやコミュニケーション能力の向上、キャリア

このイベントは2010年に始まり、今年500人を超える生徒が全国から集まる。イベントを企画したのは、JTBグループで法人・学校向け事業を手掛けるJTBコーポレートセールスだ。同社営業推進



JTBコーポレートセールス 営業推進本部 教育総合研究室 室長 植木和司郎氏

### 生徒と一流研究者が晴れの舞台で議論

中高生が普段の授業やクラブ活動で取り組んでいる研究について壇上でプレゼンテーションし、審査員を務める世界レベルの研究者たちとディスカッションを繰り広げる。そのステージは、国内外の研究者も多く利用する、つくば国際会議場。「つくばサイエンスエッジ」は、未来の科学者を育成するためのイベントだ。

本部教育総合研究室の植木和司郎室長は語る。「サイエンスエッジは、科学にまつわるアイデアの独創性や実現可能性などを審査します。アイデア段階のテーマを発表する場はなかなかありません。しかも、江崎玲奈博士をはじめとする高名な科学者たちと直接議論ができる。この点が非常にユニークです」

立教池袋中学校・高等学校は第1回から参加を続けている学校の一つ。同校では理科教育に

力を入れており、生徒の中には国際科学オリンピックで金メダルを獲得した逸材もいる。科学部顧問を務める後藤寛教諭はこう語る。「科学部の生徒には多くの経験の場を与えたいと考え、これまでも学会や大学が主催するコンテストに参加してきました。つくばサイエンスエッジが他と異なるのは、実績ある研究者たちに直接審査していただける点です。また、他のコンテストでは選ばれた生徒しか参加できないプログラムも多いのですが、サイエンスエッジでは、ポスターセッションやワークシヨップなど誰でも自由に参加できます。その点も大きな魅力です」

ポスターセッションとは、生徒が研究活動の内容をポスター

で発表するプログラム。ホールでプレゼンするにはまだ経験が浅い生徒でも、ポスターを前にした説明なら緊張せずにできる。ワークシヨップは、さまざまな企業や研究機関、大学の研究内容を、体験しながら学べるプログラムだ。生徒は多数のワークシヨップの中から、2種類を選んで参加する。

「インテルやサイバーダイナミなどの有名企業はもちろん、学校とは普段あまり接点がない企業も数多くワークシヨップを実施



立教池袋中学校・高等学校 教諭 後藤 寛氏

# the Project

「ザ・プロジェクト」

Project Title  
つくば  
Science Edge  
Company  
JTBグループ 第1回

## 企業や研究機関と交流し 未来の科学者を 育成する場を提供

JTBグループのコーディネートで毎年開かれている「中高生のための科学コンテスト」つくばサイエンスエッジ」。生徒の科学への興味を養い、国を超えた交流の場を提供するため企業や自治体が一体となってイベントをつくっている。



江崎玲奈博士をはじめとする高名な科学者たちと直接議論ができるのも、イベントの魅力だ